

# がん患者のための地域開放型医療相談システムの構築： 青森県におけるがん患者サポートグループ運営のため「ファシリテータ」育成と サポートグループ運営プログラムの構築

織井優貴子<sup>1)</sup>、長内志津子<sup>1)</sup>、大崎瑞恵<sup>1)</sup>、吉田茂昭<sup>2)</sup>、一戸真紀<sup>3)</sup>

1) 青森県立保健大学、2) 青森県立中央病院、3) 青森市民病院

**Key Words** ①がん患者サポートグループ ②地域開放型医療相談システム  
③がん看護認定看護師 ④ファシリテータ育成

## I. はじめに

平成18年に施行された「がん対策基本法」に基づき、平成19年6月に「がん対策推進基本計画」が示され、国・地方公共団体および関係者等が、がん対策を総合的かつ計画的に推進していく必要性が示されている。青森県は、がん死亡者数が全国第1位であるにも関わらず、がん患者のサポートグループに対する行政の取り組みはなされていない。

2005年、織井らは、本邦のがん診療連携拠点病院約160施設に行ったがん患者のサポートシステムについて質問紙調査を基に、2011年再度同調査を行い全国的な傾向を比較した。その結果、法令に基づく「相談室」はほぼ確保されている事がわかったが、その運営や主たる専門職をどのように配置しているかについては未だに試行錯誤の段階であることがあきらかになった。また、院内設置型医療相談に従事するスタッフの育成や運営も今だに課題であることが明らかとなった。

## II. 目的

本研究の目的は、がん対策推進基本計画である『がん医療に関する相談支援および情報提供』に基づいて、青森県における医療相談システムとして、地域開放型のがん患者へのサポートグループ運営関わるファシリテータの育成とのサポートグループ運営プログラムの構築を目的とする。

## III. 研究経過

1. 全国のがん診療連携拠点病院における医療相談室の実態調査
  - 1) 対象：全国がん診療連携拠点病院（約350施設）
  - 2) 方法：「がん患者のための地域開放型医療相談システムの構築」-地域がん診療連携拠点病院『医療相談室』に関する調査-として作成した質問紙調査を実施した。
2. がん患者サポートを実際に実施しているがん看護認定看護師への聞き取り調査
  - 1) がん患者への相談支援の実際
  - 2) ファシリテータとしての教育体験、あるいは教育経験。研修会等への要望。

## IV. 成果及び考察

1. 全国がん診療連携拠点病院における医療相談室の実態調査  
本学の研究倫理委員会審査を受けたのち、平成23年2月～3月上旬に調査を実施し、351施設に協力を求め、130施設より回答を得た。その結果、「医療相談室」としての「場所、部屋」は確保されていることがわかったが、具体的な支援方法やスタッフ育成は課題であることがわかった。
2. がん患者の相談を実際に行っている青森県内看護師への聞き取り調査
  - 1) がん患者支援について(グループサポートに対する可能性)  
青森県内では、医療機関や治療施設が限定される。また、患者の居住地も限定されることから、グループサポートを望む患者は少ないように感じていることが示唆された。また、あらゆるメデ

ィアを駆使して情報収集し、治療に望む患者も都市部に比較すると少ないように感じていることも示唆された。具体的な患者の要望としての調査の実施が課題となった。

#### 2) ファシリテータの育成と定期的なフォローアップについて

がん看護に関連した認定看護師は、患者支援に関する何らかの研修は受けているが、そのフォローアップの機会がなく、自信が持てないことがわかった。今後は、「ファシリテータ養成研修」のアドバストコースの実施と定期的なフォローアップが必要であることが示唆された。

#### 3) 運営資金・人材の確保について

青森県がん診療連携協議会の事業の一つとして、位置づけられるように提言していく。

## VI. 文献

- 1) Spiegel D, Bloom JR, Kraemer HC, Gottheil E: Effect of psychosocial treatment on survival of patients with metastatic breast cancer. *Lancet*. 2(8668):888-91, 1989
- 2) Fawzy FL, Fawzy NW: Group therapy in the cancer setting. *J Psychosom Research* 45: 191-200, 1998
- 3) 福井小紀子: がん患者のためのサポートグループ-理論的背景と実践効果-. *がん看護* 7 (6) : 488-493, 2002
- 4) Eysenck HJ : Cancer, personality and stress: Prediction and Advances in Behavior Research and Therapy, 16:, 167-215, 1994
- 5) 織井優貴子: 大腸がん患者の免疫能と QOL に対する「writing」を用いた看護介入の効果. *日本がん看護学会誌* 20 (1), 19-25 ,2006
- 6) Smyth JM, Stone AA, Hurewitz A, Kaell A: Effects of writing about stressful experiences on symptom reduction in patients with asthma or rheumatoid arthritis: a randomized trial. *JAMA*. 281 (14): 1304-9, 1999

## VII. 発表 (誌上発表、学会発表)

(1) 織井優貴子, 長内志津子, 大崎瑞恵: 地域がん診療連携拠点病院「医療相談室」に関する実態調査. 第26回日本がん看護学会学術集会、2012年2月11日-12日、くにびきメッセ、島根、第26回日本がん看護学会学術集会講演集、p194、2012年.

(2) 長内志津子, 大崎瑞恵, 織井優貴子: 国外におけるがん患者に対する「筆記療法(expressive writing)」の文献検討. 第26回日本がん看護学会学術集会、2012年2月11日-12日、くにびきメッセ、島根、第26回日本がん看護学会学術集会講演集、p192、2012年.

(講演)

織井優貴子: 「いのちの声を聴く～自分を見つめ、自分らしく生きるために～」第11回市民公開講座「骨髄移植を知ろう」実行委員会, 青森県骨髄バンク推進協議会、全国骨髄バンク推進協議会主催, 2011年11月、(青森市)